

令和4年2月17日

合格体験記

長谷川雅士

はじめに、正直私が合格体験記を書く時が来るとは思っていませんでした。理由はこの試験に合格するのに、何年かかったのかも分からないほど、途方もなく遠い道のりだったためです。（なおここからの合格体験記は私自身の勝手な考えによるものなのでその点ご容赦願います）

中小企業診断士を目指すきっかけは、会社の経営状態が非常に厳しくなり、万一の時に自分自身にはどんな能力があるのか？と考えた時、「口八丁御用聞き営業能力？」しかない事に気づいた事です。一方で、自分に甘い性格ゆえ、適当な独学の学習により1次試験合格まで5～6年（ひよっとするともっと年数がかかったかも）かかってしまいました。私の合格までの受験歴は以下の通りです。

- ① 平成22年頃～平成26年：1次試験不合格（科目合格繰返す）
- ② 平成27年：1次試験自己採点で合格を確信したその日に初めて2次試験過去問と出会い、そして慌ててAAS（短期合宿）を受講するも当然2次試験不合格（Ⅰ:35点、Ⅱ:53点、Ⅲ:40点、Ⅳ:60点、合計:188点）
- ③ 平成28年：K社通信（通年）受講。1次試験未受験。2次試験不合格（Ⅰ:42点、Ⅱ:61点、Ⅲ:40点、Ⅳ:67点、合計:210点）
- ④ 平成29年：経営法務没問のおかげ（36点→40点）で1次試験合格。MMC通信（後期）受講。2次試験不合格（Ⅰ:39点、Ⅱ:56点、Ⅲ:68点、Ⅳ:82点、合計:245点）
- ⑤ 平成30年：T社通信（通年）受講。1次試験未受験。2次試験不合格（Ⅰ:46点、Ⅱ:35点、Ⅲ:51点、Ⅳ:57点、合計:189点）
- ⑥ 令和元年～令和2年：1次試験不合格（科目合格のみ）
- ⑦ 令和3年：1次試験合格。MMC通信（後期）受講。2次試験合格（Ⅰ:63点、Ⅱ:72点、Ⅲ:73点、Ⅳ:46点、合計:254点）

1次試験は基本独学と大手受験校(複数校)の模試のみ。なお私見ですが中小企業経営・中小企業政策は複数の大手受験校模試をしっかりと復習すれば、白書を読まなくても合格点は取れると思います。

2次試験は結局5回目の挑戦で合格出来ましたが、上記を見て頂いてもわかるとおり、過去4回の挑戦は平成29年以外ひどい点数だった事がわかるかと思います。これは私のたくさんある弱点のうち、特に国語が苦手である為、まともな文章が書けない、漢字がすぐに思い出せない、等が影響していました。一方で、平成29年はMMCにお世話になり、とにかく「型」を教えて頂きました。文章及び漢字が苦手な私としては「因果」の「果」の部分は学習ガイドブックでのキーワードを徹底して覚え、「因」は与件文から探す事を徹底しました。つまり徳川先生の教えでもある「因果」ではなく「果因」です。それと、一つの文章は30字で収めつつ、多面的に書く事を徹底して練習しました。

平成 29 年は合計で 245 点ありながら不合格となったのは事例 I が 39 点で足切りだったからです。これは 30 字で、そして多面的に書く事だけに集中していたため、しっかり設問文を読んでいなかった事が主要因だったと考えます。平成 29 年事例 I 設問 1 は、「景気低迷の中で、一度市場から消えた主力商品を A 社が再び人気商品にさせた最大の要因は、どのような点にあると考えられるか。100 字以内で答えよ」でした。つまり「最大の要因」を聞かれているのに「無理やり勝手に多面的」に解答してしまい、その結果 39 点だったのではないかと思います。今思えば設問をしっかり理解し解答していれば、この年に合格出来たのではないかと今でも勝手に思っています。

様々な受験校がある中で、各人に合う・合わないはあろうかと思います。私は多年度生で毎年異なる受験校を受講した為、各受験校の特色がわかりましたが、国語な苦手な私としては、簡潔な文章をそれも試験時間 80 分という制約条件の中で書く為には MMC の「型」が合っていました。MMC 以外の他の受験校が行う、受講者同士の解答を見ながらディスカッションする事は、あまり意味がないように私は感じました。なぜならそれは合格者の解答ではない、又は合格の可能性が低い解答だからです。必要なのは合格者の解答ですから。

試験直前の第 4 回 MMC 模試は 215 点でした（408 人中 353 番）。そこから残された期間、ただひたすらキーワードの確認と「型」（「○○面で、～を活用し（因）、○○する（果）。」「○○面で、～のため（因）、○○する（果）。」）の確認を行いました。

試験当日、晴天の明治学院大学の門をくぐると中居先生が立っておられました。私は通信の為、先生は私の顔は知らないと思いますが、笑顔で挨拶して下さい、なぜか非常に嬉しい気持ちで試験に臨めた事を記憶しています。因みに試験が終わり門を出る頃には外はすっかり暗くなっており、事例 IV が全く出来なかった事も重なり心も暗くなり、朝、門をくぐった時とは正反対の気持ちになりました。そのため再現答案すら作る力がなくなってしまいました。（今思えば後悔していますか）

結びとなりますが、私は MMC がなければ絶対に合格出来ていませんでした、と断言出来ます。カッコいい解答ではなく、採点者に読みやすい簡潔な解答、確実に「因果の果」のキーワードが入っている解答、が合格への近道です。極端な話、SWOT 分析もエイベルの CFT 分析も試験合格には不要かも知れません。試験中にそんな「作業」をする時間があれば、キーワード「果」に紐づく「因」を与件文から探す「作業」の方が重要だと思います。合格まで導いて頂き本当に感謝しております。顔も知らない私の為に心のこもった添削もありがとうございました。大変励みになりました。

追記：口述試験質問 事例 II と事例 IV から各々 2 問（緊張して各々 1 問ずつしか覚えていません）

事例 II：B 社が大手 EC サイトを活用し販売する時の注意事項は？

事例 IV：フルセルフレジの導入メリットを人件費削減効果以外で？